

「京都 ものがたりの道」を読んだ

塚田 實

彬子あきこ女王著「新装版 京都 ものがたりの道」が本年七月発行された。本年四月にもオックスフォード留学記「赤と青のガウン」を発行し、文章力には定評がある。彼女は三笠宮ともひこ寛仁親王の長女で、京都にも家を持ち、大学関係の仕事をしながら街を自由に散策し、通りにまつわる様々なエピソードを魅力的に語っている。皇族だから、外出時は皇宮警察の護衛官や京都府警の警察官がつくが、彼女は気にせず歩き、その自由さが楽しい。

本には京都の道二十六カ所が紹介されているが、随所で知らないことも教えられた。彼女は「在原業平邸址」の石碑がある御池通について語る。ホテルオークラ京都は河原町御池にある。私は京都に泊まるときはここに滞在することになっている。鴨川越しに東山三十六峰を眺めるのが好きなのだ。北の比叡山から大文字山、蹴上まで寺々の遠景が展開する。私は京都には柵屋や俵屋などの老舗旅館があることは知っていた。しかし、ホテルから歩いてわずか六分の御池通からみやちやうとのおり麩屋町通を下がった、道を挟んで両側にあるとは知らなかった。今度散歩して立ち寄ってみようと思う。

「哲学の道」では、法然院について語っている。若い頃は哲学の道を散歩した後、法然院に立ち寄り、庭を散策して本尊阿弥陀如来像にお参りし、ゆっくり時を過ごせたが、今は拝観できる場所は限られお堂には入れない。「善の研究」で有名な京都大学の哲学教授西田幾多郎はこの道を散歩しながら思索にふけったと言われている。彬子女王は、法然院近くにある「西田幾多郎詩碑」を紹介している。詩碑は一九八一年建立だそうで、昔はなかった。

人は人 吾はわれ也 とにかくに 吾行く道を 吾は行なり

西田の強い意志が伝わってくる。

彼女は、最後に博士号を取得したマートン・カレッジのあるオックスフォード大学のマートン・ストリートにふれている。私はロンドン駐在時、大学の様々なカレッジを訪れ、教授たちとも交流していたので懐かしい。